

香川県の地震

令和4年(2022年)4月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1
香川県の地震表(震度1以上)	・・・	2
震度分布図	・・・	2

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会^(注)

評価検討会調査結果 令和4年(2022年)5月11日	・・・	3
----------------------------	-----	---

(注)直近に開催された評価検討会の調査結果を掲載します。

地震一口メモ

「平成28年(2016年)熊本地震」について	・・・	4
お知らせ 令和4年6月15日に緊急地震速報訓練を実施します	・・・	6

この資料の震源リスト・震源要素(緯度、経度、深さ、マグニチュード)は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

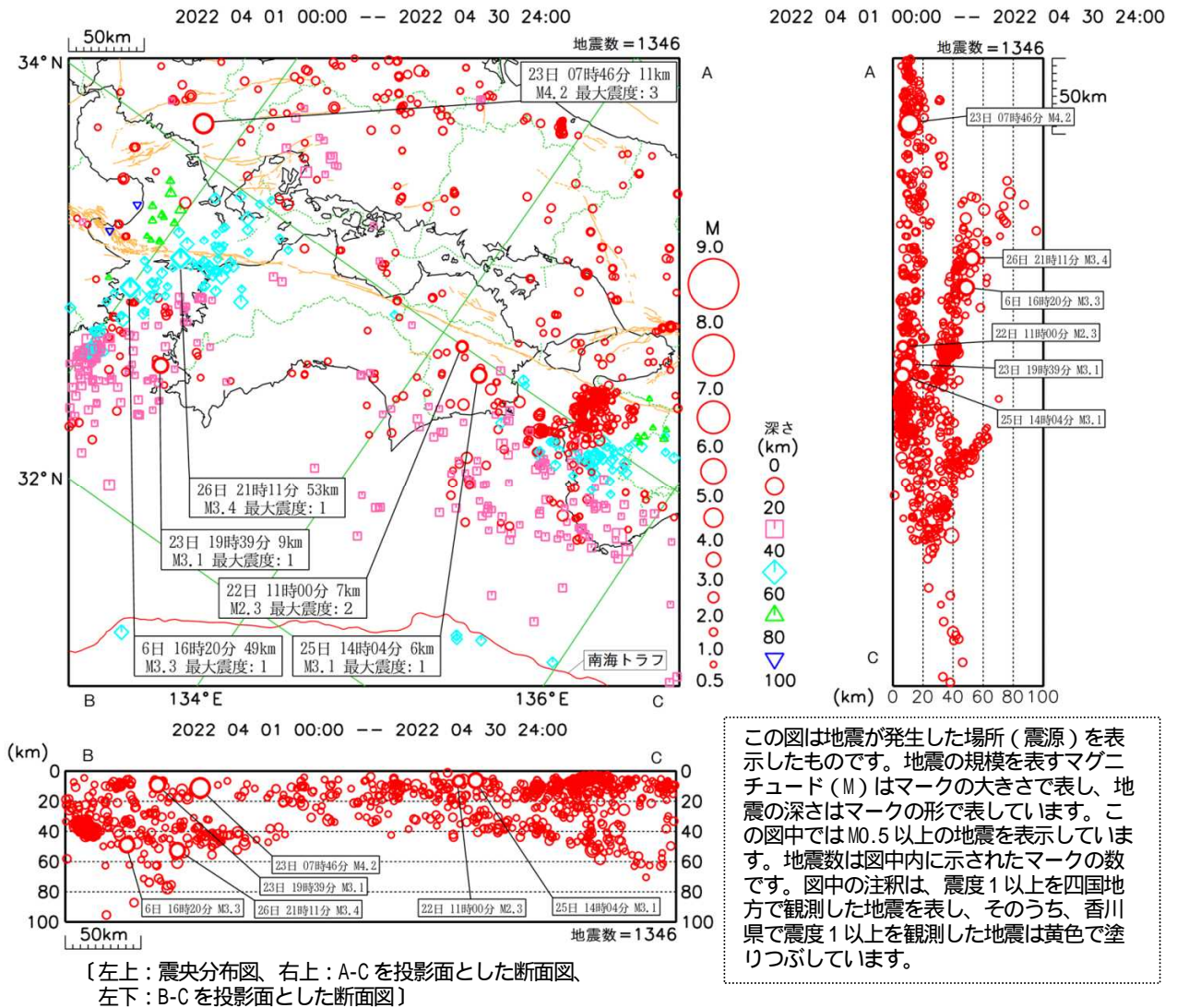
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2022年4月

震央分布図、断面図



地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、次の1回でした（前月は1回）

30日18時06分 京都府南部の地震（深さ12km、M4.3；震央分布図地図範囲外）により、小豆島町で震度1を観測しました。この地震では、京都府京都市右京区・京都市伏見区・京都市西京区・亀岡市・京丹波町・南丹市、大阪府豊能町・能勢町、兵庫県三田市で震度3を観測したほか、東海・北陸・近畿・中国・四国地方で震度2～1を観測しました。

四国で震度1以上を観測した地震は、前述の他に次の7回でした。

2日20時16分、日向灘の地震（深さ22km、M4.6；震央分布図地図範囲外）により、宮崎県西都市・高鍋町・川南町・美郷町・宮崎市・日南市で震度2を観測したほか、高知県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県で震度1を観測しました。

6日16時20分、豊後水道の地震（深さ49km、M3.3）により、愛媛県西予市、大分県豊後大野市で震度1を観測しました。

22日11時00分、徳島県北部の地震（深さ7km、M2.3）により、徳島県美馬市で震度2を観測しました。

23日07時46分、山口県中部の地震（深さ11km、M4.2）により、山口県山口市・周南市・防府市・下松市で震度3を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。

23日19時39分、豊後水道の地震（深さ9km、M3.1）により、愛媛県愛南町で震度1を観測しました。

25日14時04分、徳島県南部の地震（深さ6km、M3.1）により、徳島県神山町・美馬市・勝浦町・上勝町・那賀町で震度1を観測しました。

26日21時11分、伊予灘の地震（深さ53km、M3.4）により、愛媛県宇和島市・八幡浜市・西予市で震度1を観測しました。

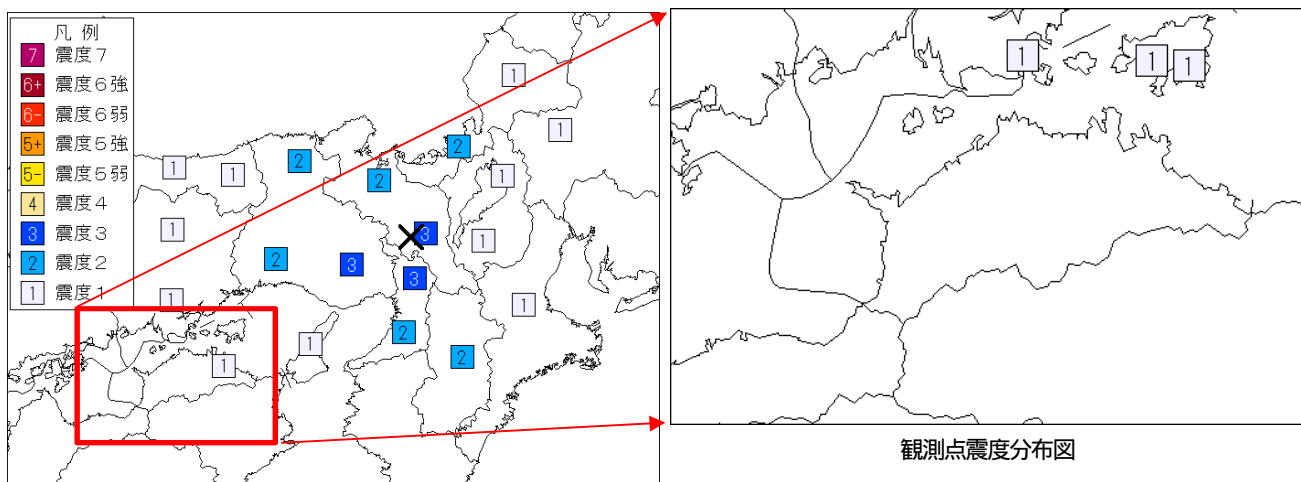
香川県の地震表（震度1以上）

震源時（年月日時分） 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2022年04月30日18時06分 香川県 震度 1 : 小豆島町馬木*,小豆島町池田*	京都府南部	35° 02.7' N	135° 33.8' E	12km	M4.3

*は気象庁以外の震度観測点

震度分布図

2022年04月30日18時06分 京都府南部の地震



地域震度分布図 (×は震央を表す)

観測点震度分布図

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会】

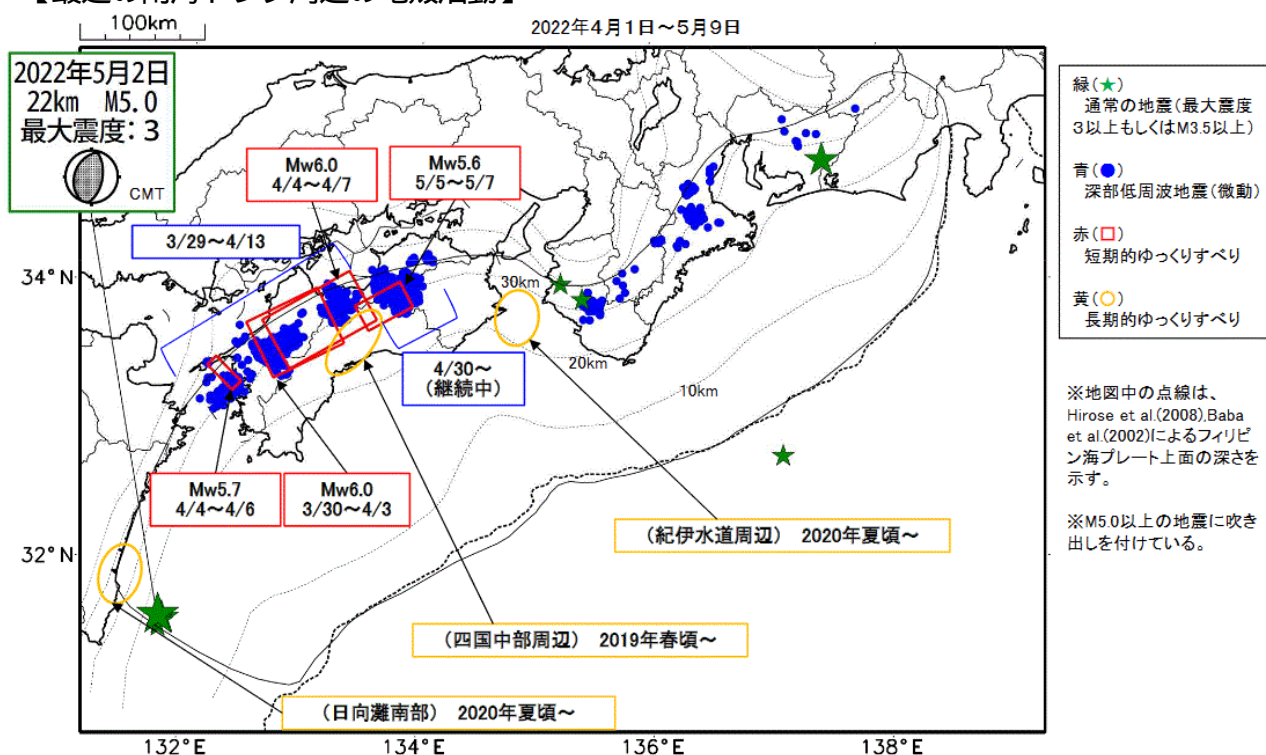
気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

令和4年(2022年)5月11日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果(概要)】

南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
 深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁の解析結果による。
 短期的ゆっくりすべり.....【四国東部】気象庁の解析結果を示す。【四国中部から西部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
 長期的ゆっくりすべり.....【四国中部周辺、紀伊水道周辺、日向灘南部】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青)、短期的ゆっくりすべり(赤)、長期的ゆっくりすべり(黄)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2205/11a/nt20220511.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム> 防災情報> 南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

「平成 28 年（2016 年）熊本地震」について

地震の概要

平成 28 年（2016 年）4 月 14 日 21 時 26 分に、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード 6.5 の地震が発生し、熊本県益城町で震度 7 を観測しました。また、4 月 16 日 01 時 25 分にはマグニチュード 7.3 の地震が発生し、熊本県益城町及び西原村で震度 7 を観測したほか、九州地方から東北地方の一部にかけて震度 6 強～ 1 を観測しました（資料 4 の p 1）。

熊本地震では 4 月 14 日の地震 (M6.5) と 4 月 16 日の地震 (M7.3) で最大震度 7 を観測したことにより、一連の地震活動で最大震度 7 を 2 回観測しました。また 4 月 16 日の地震 (M7.3) では、熊本県益城町と西原村の 2 箇所の観測点で震度 7 を観測しました。同一の地震により 2 箇所以上の観測点で震度 7 を観測したのは、1996 年に震度計による震度観測を開始して以来、初めてのことで（資料 4 の p59）。

香川県では、4 月 14 日 21 時 26 分の地震で最大震度 2、4 月 16 日 01 時 25 分の地震で最大震度 3 を観測しています（図 1、図 2）。

熊本地震は、これらの地震だけでなく、地震発生から 4 ヶ月以上経過した 8 月 31 日にも、最大震度 5 弱の地震が発生するなど、地震活動の活発な状態が続きました。9 月 30 日までに、最大震度 7 を 2 回、6 強を 2 回、6 弱を 3 回、5 強を 5 回、5 弱を 12 回観測し、震度 1 以上を観測した地震は 4068 回発生しています（表 1 資料 4 p59 の表 2-1-3）。

被害の概要

熊本地震の人的被害は、平成 31 年 4 月 12 日 18 時の時点で、死者 273 人、負傷者 2809 人、住家被害は全体で約 20 万 7 千棟、そのうち全壊は 8667 棟ありました（資料 3）。

熊本県内では、地震後の 4 月 17 日には最大の 18 万 3882 人の方々が避難し、およそ 3 か月経過後の 7 月 31 日時点でも避難生活を送る方々が 3229 人ありました（資料 5）。

最大で約 45 万戸断水、約 48 万戸停電、約 11 万戸ガス供給停止となり、交通網も道路・鉄道・空路が一時不通になるなど、大きな被害が発生しました（資料 1）。

日本は、世界有数の地震大国でこれまで多くの地震災害を経験してきました。熊本地震のように、大きな被害をもたらす地震は特定の地域に限って発生しているわけではなく、全国各地で発生しています。突然襲ってくる地震から身を守るため、迅速な避難（安全確保）及び日頃からの備えを行うことが重要です。

表 1 地震活動の状況 資料 4 p59 の表 2-1-3

期間	最大震度別回数									合計	累計
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		
4月	1,722	859	323	98	10	5	3	2	2	3,024	3,024
5月	344	134	43	8	0	0	0	0	0	529	3,553
6月	147	51	14	4	1	0	0	0	0	217	3,770
7月	85	19	8	1	0	0	0	0	0	113	3,883
8月	77	28	3	2	1	0	0	0	0	111	3,994
9月	49	16	7	2	0	0	0	0	0	74	4,068
合計	2424	1107	398	115	12	5	3	2	2	4,068	

※ 4 月は 14 日 21 時以降

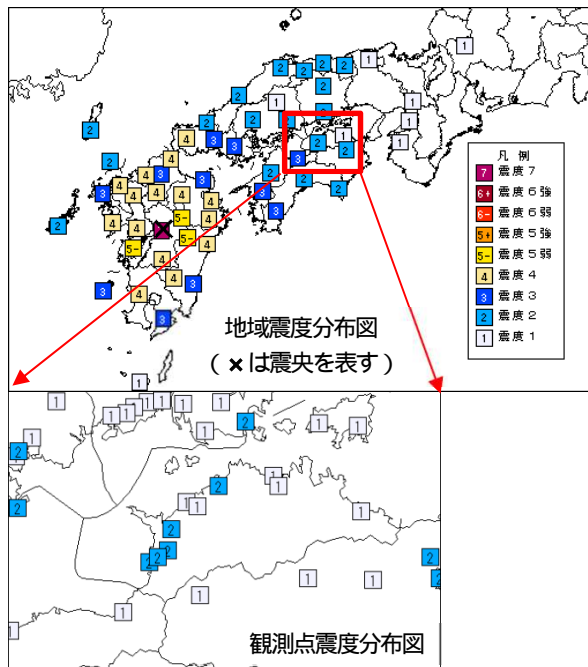


図 1 震度分布図（2016/4/14 21:26 の地震）

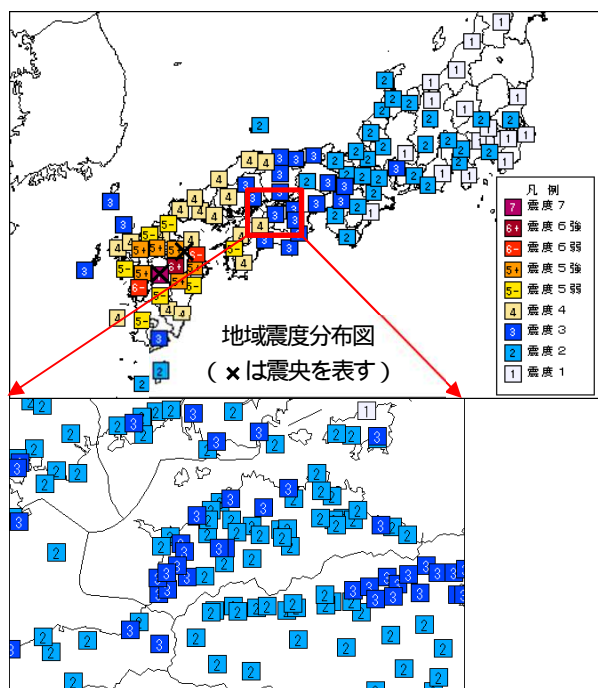


図 2 震度分布図（2016/4/16 01:25 に発生した熊本県熊本地方、大分県中部の地震による震度分布）

被害写真



写真1 熊本県のシンボル「熊本城」も大きな被害を受けた(資料1)



写真4 道路損壊(南阿蘇村)(資料4)



写真2 益城町では約三千件の家屋が全壊と判定された(資料1)



写真5 宇土市役所の損壊(宇土市浦田町)(資料4)



写真3 地震による大規模な土砂崩れで阿蘇大橋が崩落し死者も発生した(資料1)



写真6 家屋倒壊(嘉島町上島)(資料4)



写真7 道路への落石(産山村山鹿:産山村提供)(資料4)

参考資料リスト

- 資料1 「特集1 平成28年熊本地震」内閣府 防災情報のページ
https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h28/83/special_01.html
- 資料2 「平成28年(2016年)熊本地震の関連情報」気象庁ホームページ
https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/2016_04_14_kumamoto/index.html#kumamoto_data
- 資料3 「熊本県熊本地方を震源とする地震(第121報)」消防庁応急対策室 平成31年4月12日(金)18時00分
<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/kumamoto.pdf>
- 資料4 「災害時地震報告 平成28年(2016年)熊本地震」平成28年12月16日 気象庁
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/saigaiji/saigaiji_2016/saigaiji_201601.pdf
- 資料5 「図表1-1-5 熊本地震による熊本県の避難者数と避難所数の推移」内閣府 防災情報のページ
https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h29/zuhyo/zuhyo_t01_01_05.html

お知らせ

令和4年6月15日に緊急地震速報訓練を実施します

令和4年6月15日(水)に緊急地震速報の全国的な訓練を実施します。当日は午前10時00分頃に訓練用の緊急地震速報を全国瞬時警報システム(Jアラート)を活用し配信します。自治体が実施する防災行政無線の放送や、自治体や行政機関の建物等における館内放送、受信端末をお持ちの方は、訓練用の緊急地震速報が配信される場合はそのタイミングを利用して(1)あるいは別途準備されている緊急地震速報の訓練報音源を活用して(2)、可能な範囲で、緊急地震速報と連携した地震への対応訓練の実施をお願いします。



1 気象庁から送られた訓練用の緊急地震速報等を活用して訓練を行う方法

- ・市町が実施する防災行政無線の放送を活用する場合
防災行政無線による緊急地震速報の訓練報の放送が行われる場合には、その放送が聞こえたら身を守る行動をとる訓練の実施が考えられます。
- ・行政機関の建物等における館内放送を活用する場合
行政機関等の建物などで、訓練用の緊急地震速報が発表されたことを館内放送する場合もあります。館内放送が行われた場合には、係員の指示に従って冷静に身を守る行動を取ってください。
- ・受信端末に訓練用の緊急地震速報が配信される場合(受信端末をお持ちの方)
受信端末に緊急地震速報を配信している民間事業者によっては、訓練用の緊急地震速報を契約された利用者の受信端末あてに配信する場合があります。
受信端末の報知等が行われたら、身を守る行動を取ってください。
- ・なお、訓練用の緊急地震速報は、テレビ・ラジオの放送や、携帯電話・スマートフォンの緊急速報メール(エリアメール)には流れません(一部のコミュニティFM等を除く)

2 独自の訓練を行う方法

準備はご自分で行う必要がありますが、いつでも好きな時に訓練することが出来ます。

- ・緊急地震速報の専用受信端末の訓練用機能を利用する場合
受信端末の機能として、ボタン押下等により動作テストや訓練用の報知等を行えるものがあります。このような訓練用の機能を持つ受信端末をお持ちの場合は、その機能を利用して、実際にどのような音や内容で報知等が行われるかを確認すると共に、身を守る行動を取ってください。訓練用機能の有無や、利用方法については、ご契約の事業者にお問い合わせください。
- ・気象庁が提供する訓練用動画を利用する場合
緊急地震速報を見聞きしたとき(テレビでの見聞きを想定)の行動からゆれが収まった後の避難行動開始までの対応行動を経験するため、映像と音声により一連の流れを表した訓練用動画をホームページに公開しています。緊急地震速報の報知に合わせて訓練を行いたい場合にぜひご活用ください。

緊急地震速報受信時対応行動訓練用キット（動画、ダウンロード可）が掲載されています。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/kunren/kit1.html>

・スマートフォンの「地震防災訓練アプリ」を用いる場合

株式会社NTTドコモでは、緊急地震速報の専用ブザー音による報知をきっかけに対応行動をとる訓練に利用できる「地震防災訓練アプリ」を公開しています。このアプリはNTTドコモ以外のスマートフォンでも利用可能です。（一部利用できない機種があります。）

令和4年6月15日（水）の緊急地震速報全国訓練は、スマートフォンのアプリを用いて緊急地震速報の専用ブザー音による報知をきっかけに対応行動をとることが可能です。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/kunren/kunren-app.html>